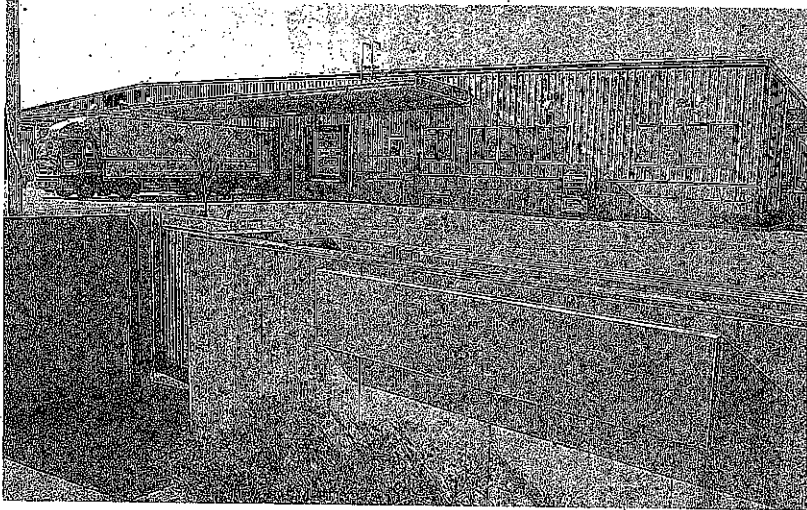


五輪選手村食材提供へ弾み

GAPチャレンジシステム

フュージヨン(都)認定

鶏卵生産



GAP取得チャレンジシステムの認定を受けたフュージヨンのGAPセンター―都城市高城町

鶏卵生産・販売のフュージヨン(都城市、赤木八寿夫社長)は5月2020年東京五輪・パラリンピックの選手村での食材提供基準となるGAPの取得に向けた取り組みを

鶏卵の生体と、生乳、鶏卵。上位認証の国内畜産向け農業生産工程管理(畜産GAP)と同じ項目数が判定されるが、基準は低いため、GAP取得を目指す企業、農場の売を行う「アミューズ(日向

保全、動物福祉(アニマルウェルフェア)、労働管理、経営の持続性(サステナビリティ)などの項目を自己点検し、同会に申請。同会が審査する仕組みとなっている。同会の認定対象となるのは乳用牛、肉用牛、豚、肉用鶏、採卵鶏の生体と、生乳、鶏卵。衛生管理やトレーサビリティ(生産流通履歴)体制の整った流通システムなどが評価された。

安心安全の県産PR

評価する「GAP取得チャレンジシステム」の確認済み農場に認定されたと発表した。全国八つの畜産関連企業、農場が中央畜産会(東京)から認定され、県内企業は同社のみで鶏卵生産企業としても全国で初めて。同社は「安全な卵を提供し、販売店や消費者にも安全安心への取り組みを周知したい」としている。

同システムは、企業や農場が食品安全、家畜衛生、環境

ステップとなっている。10月中旬に申請の受け付けがあり、11月に同会が審査、聴き取りを実施。同28日に同会が審査結果を公表した。同社は採用用鶏のひなの育成と親鶏用の10養鶏場を新富町と鹿兒島県曾於市で展開。県内でGAPセンター、液卵工場、加工場2カ所を運営する。アニマルウェルフェアに対応した新富町日置のケージフリー型の養鶏・採卵場や、

(栗山寛行)